

厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対応研究事業

エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の

実践に資する包括的研究

令和6年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 田中 亮

令和7（2025）年5月

目 次

I. 総括研究報告

- エビデンスに基づいたロコモティブシンдром早期対策の実践に資する包括的研究 2
田中 亮

II. 分担研究報告

- ロコモティブシンдром非該当者を基準個体とした体力測定項目の基準範囲の作成 7
山科俊輔
- ロコモティブシンдромの重症度を推定する体力測定の診断閾値の作成 14
田中繁治
- 動画からロコモティブシンдром重症度を推定するモデルの精度の検討 25
井上 優
- 運動と栄養に睡眠衛生を加えた効果の検証－高齢者を対象に－ 32
田中 亮
- ロコモティブシンдромとサルコペニアの因果関係の検証 43
田中 亮
- ロコモティブシンдромとフレイルの因果関係の検証 52
出口直樹
- III. 研究成果の刊行に関する一覧表 61

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
総括研究報告書

エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

研究代表者 田中 亮 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授

研究要旨

【目的】本研究の目的は、ロコモティブシンドローム（ロコモ）、フレイル、サルコペニアの関係性を整理し、エビデンスに基づいて簡便な診断法や介入方法を確立し、将来的に要介護となる者を未然に減らす施策の提言を行うことである。

【方法】令和5年度に引き続き令和6年度も本研究のために3つの研究項目を設定した。研究項目1は「ロコモのスクリーニング方法の検証」とした。横断研究を行ってロコモ非該当を基準個体とした体力測定の基準範囲を検証した。また、若年者を含む非高齢者を対象にロコモ度を推定する体力測定の診断閾値を検証した。さらに、スマートフォンのカメラを使って歩行の運動学的特徴からロコモ度を推定できるか検討した。研究項目2は「運動と栄養に睡眠管理を加えた有効性の検証」とした。ランダム化比較試験（RCT）を行い、地域在住高齢者を対象に運動、栄養、睡眠に着目した生活習慣の見直しが移動機能の改善に及ぼす効果を検証した。研究項目3は「ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係の検証」とした。コホート研究を実施し、サルコペニアの有無と1年後のロコモ進行の関係、および、ロコモの有無と1年後のフレイル進行の関係を検討した。

【結果】研究項目1ではロコモ非該当を基準個体とした握力、歩行速度、Timed up & go (TUG) テストの基準範囲が再評価された。また、若年者を含む非高齢者であってもロコモ度を推定する精度が著しく低下しないようスクリーニング方法を改変した。さらに、歩行の運動学的特徴からロコモの有無や重症度を推定できる可能性が示唆された。研究項目2ではRCTの結果、運動および食に加えて睡眠にも着目した生活習慣の見直しには地域在住高齢者の移動機能を5歳分程度改善させる効果があることが示唆された。研究項目3ではロコモ度2以上であることと1年後のフレイルの進行の有意な関連が示された。

【結論】体力測定の結果を活かしたスクリーニング方法が確立された。睡眠管理を含めた生活習慣の見直しは地域在住高齢者のロコモの改善に有効であることを示すエビデンスが得られた。ロコモとフレイルの因果関係の一部が認められた。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究

機関における職名

安達 伸生	広島大学大学院医系科学研究科 教授
三上 幸夫	広島大学病院皮膚・運動器診療 科 教授
高橋 真	広島大学大学院医系科学研究科 教授
緒形 ひとみ	広島大学大学院人間社会科学研究科 準教授
秋田 智之	広島大学大学院医系科学研究科 講師
光武 翼	佐賀大学医学部付属病院臨床研 究センター 準教授
猪村 剛史	広島都市学園大学健康科学部リ ハビリテーション科 講師
生田 祥也	広島大学病院皮膚・運動器診療 科 助教
岩本 義隆	広島大学病院リハビリテーショ ン部門 理学療法士
田中 繁治	東京家政大学健康科学部リハビ リテーション学科 準教授
牛尾 会	広島大学病院皮膚・運動器診療

科 助教

平田 和彦	広島大学病院リハビリテーション部門 部門長
井上 優	吉備国際大学人間科学部人間科学科 准教授
山科 俊輔	広島大学大学院人間社会科学研究科 研究員
出口 直樹	広島大学大学院人間社会科学研究科 研究員／東京都健康長寿医療センター研究所 研究員

A. 研究目的

本研究の目的はロコモティブシンドローム（ロコモ）、フレイル、サルコペニアの関係性を整理し、エビデンスに基づいて簡便な診断法や介入方法を確立し、将来的に要介護となる者を未然に減らす施策の提言を行うことである。この目的を実現するため令和4年度から以下の3つの研究を行っている（表1）。研究項目1は「ロコモのスクリーニング方法の検証」である。研究項目2は「運動と栄養に睡眠管理を加えた有効性の検証」である。研究項目3は「ロコ

モ、フレイル、サルコペニアの因果関係の検証」である。本研究ではロコモ対策の3つの問題意識に着目している。第1に従来の評価方法（ロコモ度テスト）はロコモ判定を目的として実施することが前提で、このテストなしではロコモの疑いが見落とされる点である。見落としを防ぐためには簡便なスクリーニング方法を確立する必要がある。第2に従来の研究では介入方法として運動や栄養が注目されていたが、睡眠管理は見過ごされてきた点である。睡眠とロコモの可能性は指摘されているものの、これまで睡眠管理の有効性は検証されていない。第3はロコモ、フレイル、サルコペニアの関係を調べた従来の研究は横断研究であった点である。そのため現在までにこれらの因果関係は証明されていない。第1の問題意識に対して、体力測定（握力、歩行テスト、片脚立ち保持時間）に着目し、令和4年度に基準範囲や診断閾値を作成した。令和5年度に引き続き令和6年度もその妥当性を検証する。また、歩行の動画をAIで解析してロコモ度を推定する簡便かつ革新的なモデルを確立検証する。第2の問題意識に対して、令和5年度に若年者を対象としたランダム化比較試験（RCT）を行った。令和6年度は地域在住高齢者を対象としたRCTを行う。第3の問題に対しては3年間を通じてコホート研究を実施し、ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係を解析する。

表1 本研究の研究課題

研究項目	研究課題
1. ロコモのスクリーニング方法の検証	【課題1-1】ロコモ非該当を基準個体とした体力測定の基準範囲の作成
	【課題1-2】ロコモ度を推定する体力測定の診断閾値の作成
	【課題1-3】歩行および片脚立ちの動画からロコモ度を推定するモデルの確立検証
2. 運動と栄養に睡眠管理を加えた有効性の検証	【課題2-1】運動、栄養、睡眠管理がロコモに及ぼす効果のエビデンスの評価
	【課題2-2】運動と栄養に睡眠管理を加えた効果の検証－若年者を対象に－
	【課題2-3】運動と栄養に睡眠管理を加えた効果の検証－高齢者を対象に－
3. ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係	【課題3-1】ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係のエビデンスの評価
	【課題3-2】ロコモとサルコペニアの因果関係の検証

係の検証	【課題3-3】ロコモとフレイルの因果関係の検証
------	-------------------------

B. 研究方法

研究項目1「ロコモのスクリーニング方法の検証」

令和6年度は以下の課題に取り組んだ。

【課題1-1】ロコモ非該当を基準個体とした体力測定の基準範囲の作成

【課題1-2】ロコモ度を推定する体力測定の診断閾値の作成

【課題1-3】歩行の動画からロコモ度を推定するモデルの確立検証

課題1-1の研究デザインは横断研究であった。令和5年度に引き続きサンプルを収集、追加した。対象者は日常生活が自立している65歳以上の地域在住高齢者とした。体力測定項目は、握力、片脚立ち保持時間、歩行速度（通常、最速）、Timed up and Go test（TUG）とした。生データによる基準範囲の作成とシミュレーションによる作成を行った。各体力測定項目について正規性の検定を行ない、正規分布を示した場合は95%信頼区間（CI）を算出した。正規分布を示さなかった体力測定項目については、Box-Cox変換を実施し、再度正規性の検定を行なった。Box-Cox変換後に正規分布を示した項目については、95%CIを算出し、逆変換を行なうことで元の値の95%CIを算出した。シミュレーションではこれらの方法に加えて、ブートストラップ法による95%CIの算出を行った。

課題1-2の研究デザインは横断研究であった。令和4年度に引き続きサンプルを収集、追加した。データは、2021年5月から2024年7月の間に参加者を募集した。65歳未満の若年・中年成人群、65歳以上の高齢成人群を設定した。ロコモティップシンドロームを従属変数とし、ロコモ度テストを用いてロコモ非該当、ロコモ度1-3で評価した。年齢や性別などの属性の他に、予測変数として片脚立ち保持時間、握力、快適歩行速度、TUGの4つの運動機能検査を測定した。先行研究や運動器不安定症およびフレイルの診断基準の閾値に基づいた改変L-treeSを開発し、domain validationを検証することとし、それぞれのモデルについてReceiver operating characteristic曲線解析を実施した。また、感度、特異度を用いて陽性尤度比、陰性尤度比、検査後確率（陽性的中率、陰性的中率）を算出し、モデルの診断性能を検討した。モデルの診断

精度については Area under the receiver operating characteristic curve (AUROC)を用いて検討した。

課題 1-3 の研究デザインは横断研究とし、対象は地域在住高齢者とした。歩行動作はスマートフォンカメラで撮影し、片脚立ち動作は三次元動作解析装置（AKIRA）を用いて撮影した。骨格推定点の座標から体幹傾斜角度、肩・股・膝関節の屈曲伸展角度とその左右比を算出し、ロコモ非該当／該当を判別するモデル（モデル 1）と、ロコモ度 1 以下／2 以上を判別するモデル（モデル 2）に投入した。モデルの精度は混合行列を作成し、正解率、適合率、再現率、特異度、F 値、AUROC で評価した。

研究項目 2 「運動と栄養に睡眠管理を加えた有効性の検証」

令和 6 年度は以下の課題に取り組んだ。

【課題 2-3】運動と栄養に睡眠管理を加えた効果の検証－高齢者を対象に－

課題 2-3 の研究デザインはランダム化比較試験だった。参加者の選択基準は 60 歳以上男女とした。参加者をランダムにコントロール群、標準的介入群、実験的介入群に割り付け、介入を 12 週間行った。標準的介入群は運動習慣（週 3 回のロコトレなど）と食習慣（プロテイン 15g の追加摂取など）に介入した。実験的介入 A 群は運動習慣と睡眠習慣（睡眠教育の動画の視聴や睡眠促進行動の実施など）に介入した。実験的介入 B 群は運動習慣、睡眠習慣、食習慣のいずれにも介入した。主要評価項目は 2 ステップ値とし、副次評価項目は睡眠の質（ピツツバーグ睡眠質問票総合得点）、立ち上がりテスト、ロコモ 25、30 秒椅子立ち上がりテストとした。分散分析を行い 12 週時のアウトカムを 3 群間で比較した。

研究項目 3 「ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係の検証」

令和 6 年度は以下の課題に取り組んだ。

【課題 3-2】ロコモとサルコペニアの因果関係の検証

【課題 3-3】ロコモとフレイルの因果関係の検証

課題 3-2 の研究デザインは前向きコホートであった。令和 5 年度に引き続きサンプルを収集、追加した。対象は広島県に在住す

る移動動作が自立した者とした。サルコペニアは Asian Working Group for Sarcopenia (AWGS) 2019 に準じて診断した。加えて、筋量の低下は認めるが筋力の低下は認めないプレサルコペニアを分析に含めた。ロコモは日本整形外科学会が提唱しているロコモ度テスト（立ち上がりテスト、2 ステップテスト、ロコモ 25）を用いて診断した。1 年後のロコモ度がベースライン時から増加した者を進行群とした。ベースライン時のサルコペニアの有無を独立変数とし、1 年後のロコモ度の進行を従属変数としたロジスティック回帰分析を行った。

課題 3-3 の研究デザインは前向きコホートであった。ロコモの重症度は、標準化された評価に基づき「非ロコモ」「ロコモ度 1」「ロコモ度 2 以上」の 3 群に分類した。身体的フレイルは、日本語版 Cardiovascular Health Study 基準により評価し、1 年間での「健常からプレフレイルまたはフレイルへの移行」または「プレフレイルからフレイルへの移行」をフレイル進行と定義した。ロジスティック回帰分析により、年齢、性別、BMI、疼痛、転倒歴、TUG、片脚立ち保持時間、ベースラインのフレイル状態などの交絡因子を調整し、ロコモ度とフレイル進行との関連を検証した。

C. 研究結果

研究項目 1 「ロコモのスクリーニング方法の検証」

【課題 1-1】ロコモ非該当を基準個体とした体力測定の基準範囲の作成

解析対象者は 109 例（男性 19 例）であった。いずれの解析においても最終的に正規分布を示した体力測定項目は、握力、通常歩行速度、最速歩行速度であった（男女の片脚立ち保持時間はいずれの解析においても正規分布を認めなかった）。算出した基準範囲は、握力が男性 35.82 - 40.83（シミュレーション：36.14 - 40.83）kg、女性 21.30 - 22.90（シミュレーション：20.43 - 22.02）kg、通常歩行速度が男性 1.33 - 1.58（シミュレーション：1.33 - 1.57）m/s、女性 1.52 - 1.63（シミュレーション：1.52 - 1.63）m/s、最速歩行速度が男性 1.79 - 2.12（シミュレーション：1.82 - 2.12）m/s、女性 1.94 - 2.06（シミュレーション：1.93 - 2.06）m/s、TUG テストが男性 5.00 - 5.51（シミュレーション：5.03 - 5.49）秒、女性 5.44 - 5.77（シミュレーション：5.44 - 5.77）秒であった。

【課題 1-2】ロコモ度を推定する体力測定の診断閾値の作成

本研究では、最終的に 857 人が解析対象となつた。両群の内訳は、若年・中年成人群が 319 名（女性 240 名、男性 79 名、平均年齢 48.2 ± 11.1 歳）と高齢成人群が 538 名（女性 433 名、男性 105 名、平均年齢 74.3 ± 5.2 歳）であった。若年・中年成人群では、モデル 1、2、3 において、それぞれ AUROC 値は 0.765 (95%CI、0.712-0.818、 $p < 0.01$)、0.680 (95%CI、0.540-0.821、 $p < 0.01$)、0.650 (95%CI、0.434-0.867、 $p = 0.12$) となり、低～中等度の診断精度が確認された。

【課題 1-3】歩行の動画からロコモ度を推定するモデルの確立検証

歩行モデルでは、モデル 1 が高い感度と F 値を示し、ロコモ該当の抽出において高い分類性能を示した。モデル 2 も AUROC が 0.9 を超える精度を示し、重症度推定にも一定の有用性が認められた。片脚立ちモデルも良好な分類精度を示し、今後の応用可能性を示唆した。

研究項目 2 「運動と栄養に睡眠管理を加えた有効性の検証」

【課題 2-3】運動と栄養に睡眠管理を加えた効果の検証－高齢者を対象に－

49 名が登録され（男性 6 名、女性 39 名、年齢 71.5 ± 5.4 歳）、標準的介入群 15 名、実験的介入 A 群 17 名、実験的介入 B 群 17 名が割り付けられた。その後 2 名が脱落し、47 名が解析対象となつた。ベースライン時の 2 ステップ値は標準的介入群 1.41 ± 0.12 、実験的介入 A 群 1.41 ± 0.13 、実験的介入 B 群 1.40 ± 0.12 であり、3 群間に有意差は認めなかつた。12 週時の 2 ステップ値は標準的介入群 1.43 ± 0.12 、実験的介入 A 群 1.40 ± 0.17 、実験的介入 B 群 1.44 ± 0.13 であり、3 群間の有意差は認めなかつた。睡眠の質を含めた副次評価項目も同様であった。

研究項目 3 「ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係の検証」

【課題 3-2】ロコモとサルコペニアの因果関係の検証

ベースラインから 1 年後まで追跡可能だ

った 325 名を解析に含めた。ベースライン時にサルコペニアと診断された者は 21 名 (6.5%) であった。1 年後のロコモ度の改善群・維持群は 273 名 (84.0%)、進行群は 52 名 (16.0%) であった。ロジスティック解析の結果、サルコペニアの調整済みオッズ比は有意でなかった。女性に限り、立ち上がりテストによるロコモ度を従属変数にすると、プレサルコペニアのオッズ比が有意であり（調整オッズ比[OR] : 0.39、95%信頼区間[CI] : 0.16-0.95）、ロコモ度の進行に抑制的であった。

【課題 3-3】ロコモとフレイルの因果関係の検証

ベースラインから 1 年後まで追跡可能だった 253 名を解析に含めた。参加者の年齢中央値は 74 歳（範囲：65～89 歳）、女性が 85.0% を占めた。ロコモ度 1 の割合が最も高く (53.8%)、ロコモ度 2 以上が 21.7%、ベースライン時にプレフレイルであった者は 33.2% であった。1 年後、16.9% の参加者にフレイル進行が認められ、70.9% は状態が安定していた。非ロコモ群と比較して、ロコモ度 2 以上の群ではフレイル進行リスクが有意に高かった（調整オッズ比[OR] : 9.66、95%信頼区間[CI] : 2.70-34.5）。一方、ロコモ度 1 はフレイル進行との有意な関連を示さなかつた。

D. 考察

研究項目 1 「ロコモのスクリーニング方法の検証」のために令和 6 年度は課題 1-1、課題 1-2、課題 1-3 に取り組んだ。課題 1-1 では、本研究では健常な地域在住高齢者（ロコモ非該当の高齢者）の体力指標の基準範囲を推定および検証した。今回作成した体力測定項目の中で握力、通常・最速歩行速度は、一定の妥当性を有した基準範囲であった。サンプル数の確保の課題があるため、今後もデータの収集が必要である。課題 1-2 では、改変 L-treeS における domain validation を検討した結果、若年・中年成人群においては低～中等度の診断精度であった。これは、これまでの L-treeS の精度を上回る値であった。本研究で開発した改変 L-treeS は運動器不安定症やフレイルの診断基準に用いられている項目や閾値を使用していることから、これらの状態を予測する上でも活用できる可能性が示唆された。課題 1-3 では、スマートフォンカメラによる歩行評価は、精度と実装性の両面でスクリーニング手法として有望であることが示された。片脚立ちは省スペースな評価動作として将来性があり、今後はスマ

一トフォンによる計測への適用や、歩行との組み合わせによる多面的な活用が検討されるべきことであることがうかがわれた。

研究項目2「運動と栄養に睡眠管理を加えた有効性の検証」のために令和6年度は課題2-3を取り組んだ。課題2-3では、運動および食に加えて睡眠にも着目した生活習慣の見直しによるロコモの改善は臨床的に無視できない大きさであることが明らかになった。ただし、運動習慣と食習慣の見直しによるロコモの改善の効果と比べて、食習慣の見直しを睡眠習慣の見直しに置き換えたことによって得られる効果は大きくなかった。

研究項目3「ロコモ、フレイル、サルコペニアの因果関係の検証」のために令和6年度は課題3-2、課題3-3を取り組んだ。課題3-2では、サルコペニアが1年後のロコモの進行に及ぼす影響は示唆されなかつた。課題3-3では、ロコモ度2以上は、地域在住高齢者におけるフレイル進行の有意なリスク因子であることが示された。より進行したロコモを有する者に対する早期介入の重要性が示唆され、ロコモの重症度評価がフレイル予防戦略の立案に有用である可能性がある。

E. 結論

体力測定の結果を活かしたスクリーニング方法が確立された。睡眠管理を含めた生活習慣の見直しは地域在住高齢者のロコモの改善に有効であることを示すエビデンスが得られた。ロコモとフレイルの因果関係の一部が認められた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Iwamoto Y, et al., The risk factors for development or progression of locomotive syndrome: a systematic review Nagoya J Med Sci, 87:60-75, 2025
- 2) Hamada K, et al., A systematic review of the relationship between body composition including muscle, fat, bone, and body water and frailty in Asian residents Nagoya J Med Sci, 87, 1-21, 2025

2. 学会発表

- 1) 田中亮、他：若年者を含む非高齢者を対象にしたロコモティブシンドロームスクリーニングツール（L-treeS）のdomain validation の検証 第31回日本予防理学療法学会（令和6年）
- 2) 廣濱賢太、他：ロコモ5と比較したロコモ25痛み項目のロコモティブシンドロームのスクリーニング精度－横断研究－ 第28回日本ペインリハビリテーション学会学術大会（令和6年）
- 3) 濱田和明、他：地域在住中高齢者の運動器疼痛とフレイル構成因子の関連：横断研究 第28回日本ペインリハビリテーション学会学術大会（令和6年）
- 4) 田中亮、他：ロコモ25痛み項目はロコモティブシンドロームをスクリーニングできるか？ 第35回日本運動器科学会（令和6年）
- 5) 田中亮、他：運動および食に加えて睡眠にも着目した生活習慣の見直しが若年者の移動機能に及ぼす効果－多機関共同ランダム化単盲検試験 第35回日本運動器科学会（令和6年）
- 6) 田中亮、他：地域在住高齢女性の骨格筋量および体脂肪率がロコモティブシンドロームのリスクに及ぼす影響：構造方程式モデリング 第37回日本臨床整形外科学会学術集会（令和6年）
- 7) 廣濱賢太、他：地域在住高齢者の歩行速度および握力とロコモティブシンドローム進行との関連－横断研究－ 第37回中国ブロック理学療法士学会（令和6年）
- 8) 濱田和明、他：地域在住高齢者のロコモティブシンドローム進行がフレイルリスクに与える影響－横断研究－ 第37回中国ブロック理学療法士学会（令和6年）
- 9) 出口直樹、他：地域在住中高年における不良な体組成とフレイルリスクにロコモティブシンドロームの重要度が及ぼす影響 第10回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会（令和6年）

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

ロコモティブシンドローム非該当者を基準個体とした体力測定項目の基準範囲の作成

研究分担者	山科 俊輔 田中 繁治 井上 優	広島大学大学院人間社会科学研究科 研究員 東京家政大学健康科学部 准教授 吉備国際大学人間科学部 准教授
研究代表者	田中 亮	広島大学大学院人間社会科学研究科 教授

研究要旨

【目的】本研究の目的は、ロコモティブシンドローム（ロコモ）を有さない地域在住高齢者の体力測定項目の基準範囲を男女別に作成することである。

【方法】対象者は日常生活が自立している65歳以上の地域在住高齢者とした。体力測定項目は、握力、片脚立ち時間、歩行速度（通常、最速）、TUGとした。オリジナルデータによる基準範囲の作成とシミュレーションによる作成を行った。各体力測定項目について正規性の検定を行ない、正規分布を示した場合は95%信頼区間（CI）を算出した。正規分布を示さなかった体力測定項目については、Box-Cox変換を実施し、再度正規性の検定を行なった。Box-Cox変換後に正規分布を示した項目については、95%CIを算出し、逆変換を行なうことで元の値の95%CIを算出した。シミュレーションではこれらの方針に加えて、ブートストラップ法による95%CIの算出を行った。

【結果】解析対象者は109例（男性19例）であった。いずれの解析においても最終的に正規分布を示した体力測定項目は、握力、通常歩行速度、最速歩行速度であった（男女の片足立ち時間はいずれの解析においても正規分布を認めなかつた）。算出した基準範囲は、握力が男性35.82-40.83（シミュレーション：36.14-40.83）kg、女性21.30-22.90（シミュレーション：20.43-22.02）kg、通常歩行速度が男性1.33-1.58（シミュレーション：1.33-1.57）m/s、女性1.52-1.63（シミュレーション：1.52-1.63）m/s、最速歩行速度が男性1.79-2.12（シミュレーション：1.82-2.12）m/s、女性1.94-2.06（シミュレーション：1.93-2.06）m/s、TUGテストが男性5.00-5.51（シミュレーション：5.03-5.49）秒、女性5.44-5.77（シミュレーション：5.44-5.77）秒であった。

【結論】本研究では健常な地域居住高齢者の体力測定項目の基準範囲を作成した。本基準範囲はロコモ有さない高齢者を対象に作成されたものである。今回作成した体力測定項目の中で握力、通常・最速歩行速度は、一定の妥当性を有した基準範囲であった。サンプル数の確保の課題があるため、今後もデータの収集が必要である。

A. 研究目的

加齢に伴う体力の変化は、高齢者の健康問題と関連し、ロコモティブシンドローム（ロコモ）につながることが指摘されている^{1,2)}。ロコモの早期発見や早期介入を進めていくためには、ロコモに該当していない高齢者の体力測定項目の値を把握することが必要である。

体力測定項目の値を評価するためには、基準範囲を設定することが有効である。基準範囲とは、健康な対象者から得られたデータをもとに統計的に算出された値のことである。基準範囲は個人の身体機能を判断する際に、高齢者や医療従事者にとって理解しやすい指標となり得る。さらに、基準範

囲は身体機能が低下している高齢者に対して適切な介入を行う際の目標値として機能し得ると考えられる。

臨床現場では、適切な介入を実施するために体力測定項目の基準範囲が使用されている。これまでの研究では、握力³⁾、片足立ち時間⁴⁾、歩行速度⁵⁾、Timed Up and Goテスト（TUG）⁶⁾の基準範囲が報告されている。さらに、先行研究では歩行速度の低下と下肢筋力低下がロコモの重症度に関連することが明らかにされている^{7,8)}。これらの結果は、前述の体力測定項目に基準範囲を用いることの重要性を支持するものである。

適切な基準範囲を設定するためには、対象者を厳格に選択する必要がある。しかし、体力測定項目の基準範囲を作成するための

先行研究ではロコモを持つ地域居住高齢者が対象に含まれている。したがって、これまでの体力測定項目の基準範囲は過小評価されている可能性があり、ロコモを有していない高齢者の基準範囲を作成することが重要であると考えられる。これらの課題を解決することで、普段実施されている地域の体力測定会などから、早期発見や啓発活動につながる可能性がある。

本研究の目的は、ロコモを有さない地域在住高齢者の体力測定項目の基準範囲を男女別に作成することである。

B. 研究方法

1. 対象者

研究対象は、65歳以上の地域在住者で、動作能力が自立している者とした。除外基準は認知障害が疑われる者、重篤な疾患（不安定な心臓病、脳卒中、重度の呼吸障害、ペーキンソン病、糖尿病性末梢神経障害、リウマチ・関節炎）とした。データ収集の期間は2020年11月から2025年11月までとした。

2. 測定項目

年齢、性別、身長、体重、体格指数（body mass index: BMI）を基本属性として測定した。また、体力測定項目として握力（kg）、片脚立ち時間（秒）、通常歩行速度（m/s）、最速歩行速度（m/s）、TUG（秒）の5つを測定した。

ロコモの重症度は日本整形外科学会が提唱するロコモ度テストを用いて評価した。この検査は、2つの機能検査（立ち上がり検査と2ステップ検査）と、自記式質問票である Geriatric Locomotive Function Scale-25 (GLFS-25)で構成されている。判定基準はロコモの重症度を0（健常）から3（最も重症）とした。3つのテストを実施した後、最も重度であった検査結果を採用した。

3. 統計解析

解析は健常高齢者の基準範囲を計測したデータ（オリジナルデータ）より作成、ブートストラップ法によるシミュレーションにより作成した。

① オリジナルデータによる健常高齢者の基準範囲の作成

基準範囲の算出方法は、健常高齢者の体力測定項目に対して正規性検定を行ない、分布が正規であれば、95%CIを推定した。体力測定項目の結果が正規分布していない項目については、Box-Cox変換を行ない、再

度正規性検定を実施した。正規分布に変換が可能であった場合は、95%CIを推定し、逆変換を行ない基準範囲とした（図1）。

② シミュレーションによる健常高齢者の基準範囲の作成

シミュレーション解析の方法としては、健常高齢者の体力測定項目に対して正規性検定を行ない、分布が正規であれば、ブートストラップ法を用いて95%信頼区間（CI）を推定した。ブートストラップ法は、サンプリング時の元データが少ない場合でも母集団を推定することができるとされている⁹⁾。体力測定項目の結果が正規分布していないものについては、Box-Cox変換を行ない、再度正規性検定を実施した。正規分布に変換が可能であった場合は、ブートストラップ法を行ない、95%CIを推定した。最後に、逆変換を行ない基準範囲とした（図2）。ブートストラップ法によるサンプル推定は、1000例とした。

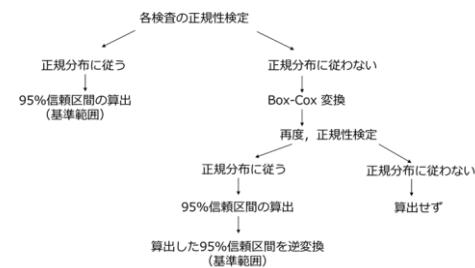


図1. 基準範囲の作成手順

（生データによる作成）

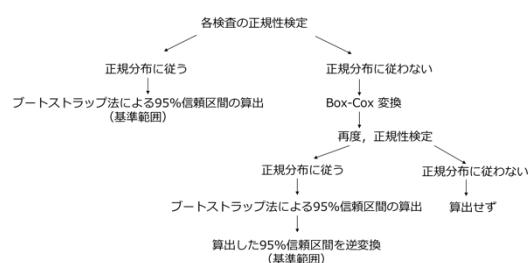


図2. 基準範囲の作成手順

（シミュレーションによる作成）

いずれの手順においても、正規性検定はShapiro-Wilk検定を用いた。外れ値はHuberのm-estimationを使用して処理した。Box-

Cox 変換の式は $x' = (x^\lambda - 1)/\lambda$, 逆変換の式は $x = (x' \times \lambda + 1)^{1/\lambda}$ とした¹⁰⁾。統計解析ソフトウェアは JMP Pro 18 (SAS 社製)を使用した。

C. 研究結果

1. 参加対象者

参加者は 882 例であった。そのうち適格性評価後に、ロコモ非該当であった 109 例（男性 19 例、女性 90 例）が解析の対象となった（表 1）。

2. オリジナルデータによる基準範囲の作成

正規性検定の結果、握力、通常歩行速度、最速歩行速度は男女ともに正規分布を認める結果であった。正規分布を認めなかった体力測定項目については Box-Cox 変換を行ない、再度正規性検定を行った。その結果、男女ともに TUG は正規分布を認めた（表 2）。正規性検定の結果より、男女の握力、通常歩行速度、最速歩行速度、TUG の 95%信頼区間を算出した。男女の片足立ち時間は 2.5 - 97.5% の分位点を基準範囲とした。

健常高齢者の握力の基準範囲は、男性 35.82 - 40.83kg、女性 21.30 - 22.90kg であった。通常歩行速度は、男性 1.33 - 1.58m/s、女性 1.52 - 1.63m/s であった。最速歩行速度は、男性 1.79 - 2.12m/s、女性 1.94 - 2.06m/s であった。TUG は、男性 5.00 - 5.51 秒、女性 5.44 - 5.77 秒であった。片足立ち時間は、男性 8.70 - 60.00 秒、女性 8.34 - 60.00 秒であった（表 3）。

3. シミュレーションによる基準範囲の推定

上記のように正規性検定の結果に基づき（表 2）、男女の握力、通常歩行速度、最速歩行速度、TUG に対して、ブートストラップ法を用い、95%信頼区間を算出した。片足立ち時間は算出が困難であった。

ブートストラップ法で推定した健常高齢者の握力の基準範囲は、男性 36.14 - 40.83kg、女性 20.43 - 22.02kg であった。通常歩行速度は、男性 1.33 - 1.57m/s、女性 1.52 - 1.63m/s であった。最速歩行速度は、男性 1.79 - 2.12m/s、女性 1.82 - 2.12m/s であった。TUG は、男性 5.03 - 5.49 秒、女性 5.44 - 5.77 秒であった。（表 3）。

D. 考察

本研究はロコモを有さない高齢者を対象にオリジナルデータとシミュレーションを用いて、それぞれの基準範囲を作成した。握力の基準範囲は男性 35.82 - 40.83（シミュレ

ーション : 36.14 - 40.83) kg、女性 21.30 - 22.90（シミュレーション : 20.43 - 22.02) kg であった。先行研究ではロコモを有さない高齢者の平均値が男性 37.6 ± 7.1 kg、女性 23.1 ± 4.7 kg とされている¹¹⁾。男性では、作成した基準範囲内の値であり、頑健な結果が得られたと考える。一方女性では、先行研究の値が作成した基準範囲よりも僅かに大きいが、値や範囲は類似しており、一定の妥当性は認めたと考える。

通常歩行速度の基準範囲は、男性 1.33 - 1.58（シミュレーション : 1.33 - 1.57) m/s、女性 1.52 - 1.63（シミュレーション : 1.52 - 1.63) m/s であった。先行研究ではロコモの有無の規定は設けられていないが、70 歳代の男性 1.09 ± 0.25 m/s、女性 1.03 ± 0.25 m/s とされている¹²⁾。本研究において作成した基準範囲の値のほうが先行研究よりも大きい結果であった。この理由は、先行研究ではロコモが対象者に含まれている可能性が高いためと考える。その点を踏まえると、ロコモを有さない高齢者の通常歩行速度の基準範囲はある程度の妥当性を備えている可能性がある。

最速歩行速度は、男性 1.79 - 2.12（シミュレーション : 1.82 - 2.12) m/s、女性 1.94 - 2.06（シミュレーション : 1.94 - 2.06) m/s であった。先行研究ではロコモの有無の規定は設けられていないが、70 歳代の男性 1.62 ± 0.39 m/s、女性 1.46 ± 0.36 m/s とされている¹²⁾。また、ロコモを有さない高齢者の平均値は男性 1.96 m/s、女性 1.81 m/s である¹¹⁾。ロコモに該当する高齢者の値よりは速度が速く、ロコモを有さない高齢者の値と同等であることから、一定の妥当性は認めたと考える。

TUG は、男性 5.00 - 5.51（シミュレーション : 5.03 - 5.49) 秒、女性 5.44 - 5.77（シミュレーション : 5.44 - 5.77) 秒であった。先行研究ではロコモを有さない高齢者の平均値が男性 6.4 ± 1.1 秒、女性 6.6 ± 1.0 秒とされている¹²⁾。本結果は先行研究よりも、TUG の時間が速いため、基準範囲の妥当性は担保できていない。TUG は正規性検定の際に正規分布を認めていなかったことから、偏りの生じやすい項目と考えられる。

本研究の限界は、サンプル数が少ないため、基準範囲の妥当性を十分に検討できていない。今後も基準範囲の妥当性を検証していく必要がある。男女それぞれに 120 例以上のサンプルを確保できれば、頑健な値が得られる可能性が高い。このような限界はあるものの、本研究は、高齢者の健康異常の早期発見に関する今後の研究・実践の発展を促進することができると考えられる。

E. 結論

本研究では健常な地域居住高齢者の体力測定項目の基準範囲を作成した。本基準範囲はロコモ有さない高齢者を対象に作成されたものである。今回作成した体力測定項目の中で握力、通常・最速歩行速度は、一定の妥当性を有した基準範囲であった。サンプル数の確保の課題があるため、今後もデータの収集が必要である。

引用文献

- 1) Muramoto A, Imagama S, Ito Z, Hirano K, Tauchi R, Ishiguro N *et al.* Threshold values of physical performance tests for locomotive syndrome. *J Orthop Sci.* 2013; 18: 618–26.
- 2) Nakamura M, Hashizume H, Oka H, Okada M, Takakura R, Hisari A *et al.* Physical performance measures associated with locomotive syndrome in middle-aged and older Japanese women. *J Geriatr Phys Ther.* 2015; 38: 202–7.
- 3) Kamide N, Kamiya R, Nakazono T, Ando M. Reference values for hand grip strength in Japanese community-dwelling elderly: a meta-analysis. *Environ Health Prev Med.* 2015; 20: 441–6.
- 4) Riis J, Eika F, Blomkvist AW, Rahbek MT, Eikhof KD, Hansen MD *et al.* Lifespan data on postural balance in multiple standing positions. *Gait Posture.* 2020; 76: 68–73.
- 5) Kawai H, Taniguchi Y, Seino Sakurai R, Osuka Y, Obuchi S *et al.* Reference values of gait parameters measured with a plantar pressure platform in community-dwelling older Japanese adults. *Clin Interv Aging.* 2019; 12: 1265–76.
- 6) Kamide N, Takahashi K, Shiba Y. Reference values for the Timed Up and Go test in healthy Japanese elderly people: determination using the methodology of meta-analysis. *Geriatr Gerontol Int.* 2011; 11: 445–51.
- 7) Yoshimura N, Muraki S, Oka H, Tanaka S, Ogata T, Kawaguchi H, *et al.* Association between new indices in the locomotive syndrome risk test and decline in mobility: third survey of the ROAD study. *J Orthop Sci.* 2015; 20: 896–905.
- 8) Taniguchi M, Ikezoe T, Tsuboyama T, Tabara Y, Matsuda F, Ichihashi N. Prevalence and physical characteristics of locomotive syndrome stages as classified by the new criteria 2020 in older Japanese people: results from the Nagahama study. *BMC Geriatr.* 2021; 9, 21: 489.
- 9) Ozarda Y. Reference interval: current status, recent developments and future considerations. *Biochem Med (Zagreb).* 2016; 26: 5–16.
- 10) Chaze JP. Assessing household health expenditure with Box-Cox censoring models. *Health Econ.* 2005; 14: 893–907.
- 11) Muramoto A, Imagama S, Ito Z, Hirano K, Tauchi R, Ishiguro N, Hasegawa Y. Threshold values of physical performance tests for locomotive syndrome. *J Orthop Sci.* 2013; 18: 618–26.
- 12) Yoshimura N, Oka H, Muraki S, Akune T, Hirabayashi N, Matsuda S *et al.* Reference values for hand grip strength, muscle mass, walking time, and one-leg standing time as indices for locomotive syndrome and associated disability: the second survey of the ROAD study. *J Orthop Sci.* 2011; 16: 768–77.

F 健康危険情報

該当なし

G 研究発表

該当なし

H 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

表1 対象者の記述統計量

	男性 n=19	女性 n=90
年齢, 歳	73.1 (4.0)	71.6 (4.3)
身長, cm	164.7 (4.8)	151.6 (4.9)
体重, kg	62.3 (6.6)	49.2 (6.1)
握力, kg	38.32 (5.20)	22.10 (3.81)
片脚立ち時間, sec	55.12 (12.40)	49.31 (16.93)
通常歩行速度, m/sec	1.45 (0.26)	1.58 (0.27)
最速歩行速度 m/sec	1.96 (0.34)	1.99 (0.29)
TUG, sec	5.33 (0.62)	5.72 (0.84)

Mean (SD), TUG: Timed UP&Go test, SD: Standard deviation

表2 各体力測定項目の正規性検定

	男性 (n=19)		女性 (n=90)	
	生データ	Box-cox 変換後	生データ	Box-cox 変換後
男性, 例数	18		19	
握力, kg	0.97	—	0.98	—
片脚立ち時間, sec	0.001	0.001	0.001	0.001
通常歩行速度, m/sec	0.99	—	0.99	—
最速歩行速度 m/sec	0.98	—	0.99	—
TUG, sec	0.04	0.88	0.001	0.92

Note: オリジナルデータで正規分布を認めなかった場合に Box-cox 変換を実施した,
 $p>0.05$ で正規分布と判断

男性 : 外れ値なし, 女性 : 外れ値なし

TUG: Timed UP&Go test

表3 基準範囲の比較表

	男性		女性	
	生データ	シミュレーション データ	生データ	シミュレーション データ
握力, kg	35.82 - 40.83	36.14 - 40.83	21.30 - 22.90	20.43 - 22.02
片脚立ち時間, sec	8.70 - 60.00	N/A	8.34 - 60.00	N/A
通常歩行速度, m/sec	1.33 - 1.58	1.33 - 1.57	1.52 - 1.63	1.52 - 1.63
最速歩行速度 m/sec	1.79 - 2.12	1.82 - 2.12	1.94 - 2.06	1.93 - 2.06
TUG, sec	5.00 - 5.51	5.03 - 5.49	5.44 - 5.77	5.44 - 5.77

TUG: Timed UP&Go test

ブートストラップ標本は1000例とし、ブートストラップ95%信頼区間を算出

片脚立ちは変換後も正規分布ではないため、シミュレーションを実施せず

正規分布は95CI、正規分布でない場合は2.5, 97.5の分位点（正規分布していない項目は男女の片足立ち時間である）

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

特記なし

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Iwamoto Y, Imura T, Hirata K, Ikeuta Y, Ushio K, Mikami Y, Adachi M, Takahashi N, Tanaka R	The risk factors for development or progression of locomotive syndrome: a systematic review	Nagoya J Med Sci	87	60-75	2025
Hamada K, Mitsu take T, Hori T, Iwamoto Y, Deguchi N, Imura T, Tanaka R	A systematic review of the relationship between body composition including muscle, fat, bone, and body water and frailty in Asian residents	Nagoya J Med Sci	87	1-21	2025

2025年4月14日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 越智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理について以下とおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 人間社会科学研究科・教授

(氏名・フリガナ) 田中 嘉・タナカ リョウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェック
クレ一一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。



2025年 4月 14日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 賢智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医系科学研究科整形外科学・教授(氏名・フリガナ) 安達 伸生・アダチノブオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	■ □	■	広島大学疫学研究倫理審査委員会	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和7年4月16日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 城智光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 医系科学研究科・教授(氏名・フリガナ) 高橋 真・タカハシ マコト

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェック
クレー一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 □ <input type="checkbox"/>
-------------	-------------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ <input checked="" type="checkbox"/> 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ <input checked="" type="checkbox"/> 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ <input checked="" type="checkbox"/> 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ <input type="checkbox"/> 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項)
 ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年 4月 14日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 鮎賀 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理について以下のように記入します。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 人間社会科学研究所・教授

(氏名・フリガナ) 鮎賀ひとみ・オガタヒトミ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■ □	■	広島大学臨床研究倫理審査委員会	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 非臨床前段階の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝了解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年4月16日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大

所属研究機関長 職名 学長

氏名 誠智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 広島大学病院リハビリテーション科・教授(氏名・フリガナ) 三上 勝夫・ミカミ エキオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェック
を入れる。若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年4月6日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 越智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理について以下とおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に対する包括的研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院医系科学研究科・講師(氏名・フリガナ) 秋田 智之 アキタトモユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝了解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和7年 2月 21日

厚生労働大臣 殿

機関名 国立大学法人 佐賀大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 見玉 浩明

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 医学部附属病院臨床研究センター・特任准教授
(氏名・フリガナ) 光武 翼・ミツタケ ツバサ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項)
・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 7年 5月 2日

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 広島都市学園大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 古澤 幸治



次の職員の(元号) 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研事業
2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 健康科学部 准教授
(氏名・フリガナ) 猪村 剛史 (イムラ タケシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称 :)	<input type="checkbox"/> ■	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェック
クレ一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年 4月 14日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 戒智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 病院整形外科・助教(氏名・フリガナ) 生田 祥也・イクタ ヤスナリ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項)
 ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年5月1日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 越智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究3. 研究者名 (所属部署・職名) 広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門 理学療法士(氏名・フリガナ) 岩本 義隆 イワモト ヨシタカ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェック
クレ一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) •該当する□にチェックを入れること。
 •分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年 4月 14日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 東京家政大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 井上 俊哉

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理について以下とおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・准教授

(氏名・フリガナ) 田中 駿治・タナカ シゲハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	■ □	■	東京家政大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェック
クリーク若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項)
 ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年4月15日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大
 所属研究機関長 職名 学長
 氏名 誠智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 広島大学病院リハビリテーション科 助教
 (氏名・フリガナ) 牛尾 会 (ウシオ カイ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	■ □	■	広島大学医学研究倫理審査委員会	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 ■ 無 □ (有の場合はその内容:)

(留意事項)
 ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年4月16日

厚生労働大臣
 (国立公衆衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大

所属研究機関長 職名 学長

氏名 越智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 広島大学病院 診療支援部 リハビリテーション部門・部門長

(氏名・フリガナ) 平田和彦・ヒラタ カズヒコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年4月15日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 吉備国際大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 中瀬 克己

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理についてのとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドrome早期対策の実践に資する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 人間科学部 准教授

(氏名・フリガナ) 井上 優 (イノウエ ユウ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---------------------------------------------------------------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合はその理由: 当研究では企業・団体からの金銭授受や機材等の提供は皆無であり利益は一切発生しないため)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: 当研究では企業・団体からの金銭授受や機材等の提供は皆無であり利益は一切発生しないため)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年4月16日

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 越智 光夫

次の職員の令和6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に関する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 大学院 人間社会科学研究科・研究員

(氏名・フリガナ) 山科 俊輔 ヤマシナ シュンスケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	広島大学疫学研究 倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項)
・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2025年 4月 15日

厚生労働大臣
 (国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
 (国立保健医療科学院長)

機関名 国立大学法人広島大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 越智 光夫

次の職員の(令和)6年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理について以下のように記入します。

1. 研究事業名 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

2. 研究課題名 エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究

3. 研究者名 (所属部署・職名) 健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・准教授

(氏名・フリガナ) 出口 直樹・デグチ ナオキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(※1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(※3)	■ □	■	広島大学疫学研究倫理審査委員会	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□ ■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□ ■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	□ ■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(※2) 未審査な場合は、その理由を記載すること。

(※3) 麻止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■ 未受講 □
-------------	------------

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 ■ 無 □ (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 ■ 無 □ (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 □ 無 ■ (有の場合はその内容:)

(留意事項)
 ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。